

研究所だより

協同集会の準備が佳境に入ってきました。早くから実行委員会を作ってきたのですが、準備は遅々として進まず、かなり遅れていました。現在もその遅れを取り戻したとは言えないのですが、いくつか嬉しい事態も進行しています。

8月上旬に一時はあきらめかけていた「井上ひさし」さんの記念講演が決まりました。ご存じのように井上ひさしさんは、山形県川西町において生活者大学校を開いておられ、コメに関してのお話も多数書かれています。しかも今年は宮沢賢治の生誕100年で、賢治研究者としても著名で、記念講演をお願いするに最も相応しい方にご登場頂けることになったと思っています。

パネルディスカッションの方も多彩で、地元の実践を中心とした仕事づくり地域おこしの楽しいお話が準備されています。実行委員会の席で「東京から来て『ものを教えてやろう』という姿勢になっていないか」とお叱りを受けたのですが、こちらにその気がなくても、遅々として進まぬ準備にイライラして、少々乱暴に企画を提起したしたところに、そうなる原因があったようです。この間東北各地の実践に触れ、そのお話を伺って、東北にある豊かな実践からその価値を真摯に学ぶということをもっと全面にだした企画にしてゆく必要を感じています。

地元の宮城県では、500人以上の参加を実現させようとしているのですが、ここに来てようやく、実感を掴めてきています。宮城県下におよそ1000あるといわれている非営利組織（NPO）とのつながりができました。地元でNPOを広げるインキュベータ（孵卵器）のような役割を果たして行きたいとされている方々がこの集会の意義を自分達の活動の延長に位置付けて頂けたことが始りです。この2年、研究所のスローガンとして「非営利協同の大連合」を掲げてきたのですが、今回の協同集会から本格的な広がり生まれそうで

す。

個別の分科会も準備する予定です。農協・農業関係では、農協中央会の阿邊参事に要請。つい先日「宮城県J A中央会の後援、加盟組織への周知は了解しました」との返事がありました。現在具体的な方法などを相談中。河北新報社の連載記事をきっかけにはじまった「朝市・夕市ネットワーク」という組織が今年春から動き始めています。毎月第4土曜に産直の市を開催。場所の確保には苦労されている様子だが毎回2000人以上の人がやってくるそうです。11月23日も第4土曜にあたり、この市が会場外で開けるようにと考えています。「農と食と村の再生」と題する分科会ではアピールも準備される予定で、農林漁業関係者の他、生協や「食」に関心を持つ方々には大変興味深い分科会となることが期待されています。

先日山形県で9番目の高齢者協同組合が設立されました。今回の協同集会の一つの焦点が高齢者障害者の福祉です。実行委員会の中に全国精神障害者家族会の方もいらっしやって、関心は高齢者障害者が安心して暮らせる「福祉コミュニティ」を一緒につくって行こうとする点にあります。仙台市内では、住民参加型の福祉を手掛けるところが約17グループあり、既にネットワークが生まれていると伺いました。福祉コミュニティを焦点にする分科会には、自治体の福祉担当者の方々も多数参加して頂きたい魅力に溢れたものになりそうです。

10月中旬までには内容が具体的になったチラシを会員の皆さんにお届けできると思います。回りの方のお誘いも是非お願いしたいと思います。ポスター、チラシ、チケット、資料づくり、集会参加要請、集会成功のキャンパ集めとやるべきことが山積しています。残り2ヶ月、紅葉の東北を楽しみながら成功へ向けてがんばりたいと思います。会員の方々の参加をお願いします。（坂林 哲雄）